



国際交流活動2020年

(国際展開担当理事) 藤山 和仁

日本生物工学会は、日本国内のみならず、東アジア・東南アジアとの連携をも重視して諸活動を展開している。例年大会時に生物工学アジア若手賞が受賞者に授与され、受賞講演が行われる。今年は、コロナ禍のため大会は開催されなかったが、2020年9月2日・3日に開催された生物工学Webシンポジウムの「WS9」アジア若手リーダーによる微生物学の国際展開《国際シンポジウム》に発表時間を調整していただき、生物工学アジア若手賞と生物工学アジア若手研究奨励賞 (DaSilva Award) の各受賞者に受賞研究をご講演いただいた。下記に2020年度の受賞者を紹介する。

■**生物工学アジア若手賞** 本年度は第17回目となり、中国のChong Zhang博士 [Tsinghua University (清華大学)] に授与された。受賞対象となった研究題目は、「High-throughput genotype-phenotype association study to accelerate understanding of microbes and designing of MCFs (微生物理解と微生物細胞工場設計を加速化するための、ハイスループットを用いた遺伝子型-表現型関連性に関する研究)」で、受賞講演はWebシンポジウム二日目の9月3日の午後に行われた。Zhang博士は中国の清華大学を卒業し、2017年に同大学より博士号を授与された。さらに、同大学でポストドク、続いて2009年より助教、2011年に准教授に昇任した。また、当会の英文誌編集委員として貢献いただいている。同氏の今後の研究における益々のご発展を期待したい。

■**生物工学アジア若手研究奨励賞 (DaSilva Award)** 第9回目の本年度はマレーシアのNorhayati Ramli博士 [Universiti Putra Malaysia (マレーシアプトラ大学)] に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Development of value-added products process from palm oil waste and monitoring of bacterial indicators for environmental assessment towards sustainable palm oil industry (パーム油廃棄物より付加価値のある生産物の生成プロセスと持続的可能なパーム油産業に向けた環境評価のためのバクテリア指標物のモニター技術の開発)」であった。受賞に関連する講演はWebシンポジウム二日目の9月3日の午後に行われた。Ramli博士はマレーシアのマレーシアプトラ大学を卒業し、2012年に同大学より博士号を授与された。さらに、同大学でポストドク、続いて2013年より助教、2019年に准教授に昇任した。同氏の今後の研究における益々のご発展を期待したい。

日本生物工学会は、韓国生物工学会 (KSBB) とは相互に会員を派遣することで交流を深めてきた。コロナ禍で受入れ、派遣が叶わなかった環境下で実施した活動を下記に報告する。

■**Korean Society for Biotechnology and Bioengineering (KSBB) との人的交流** コロナ禍のために派遣・受入による交流を実施できなかった。2020年4月9日 (木)~10日 (金) にChangwon Exhibition Convention Center CECO (昌原市) において開催予定だったKSBB春季大会は延期となり、6月25日 (木)~26日 (金) にオンライン開催された。秋季大会は、2020年10月21日 (水)~23日 (金) にハイブリッド方式で開催されたが、本会からは講演者を派遣することができなかった。また、SBJ側の年次大会が中止となったためKSBB招待講演は行われなかった。

■**KSBB-SBJ交流会議** KSBB秋季大会の三日目、10月23日 (金) の午後にオンラインで、KSBBの2021年担当理事であるChoul-Gyun Lee教授 (副会長/次期会長, Inha Univ.), Yong Hwan Kim教授 (庶務, UNIST), Jung Baek Kim教授 (国際交流, Korea Univ.), Jae-Hyung Jang教授 (国際交流, Yonsei Univ.), Jong Hoon Choi教授 (国際交流, Chung-Ang Univ.), Jeong Hyun Seo教授 (国際交流, Yeungnam Univ.) との交流会議を開いた。交流会議では今後のKSBB-SBJ交流方針その他について意見交換が行われた。本会からは、高木会長、清水・大政 (庶務・会計) 理事と筆者が出席した。Choul-Gyun Lee教授からは、より学術的な交流を可能にするため、シンポジウムのトピックに合った若手の研究者を派遣したいという要望が寄せられた。